



第40回NCUライフサイエンスセミナー

「現在の臨床医の臨床研究はどうあるべきか？」

講師：溝上 雅史 先生

産業技術総合研究所 細胞分子工学研究部門

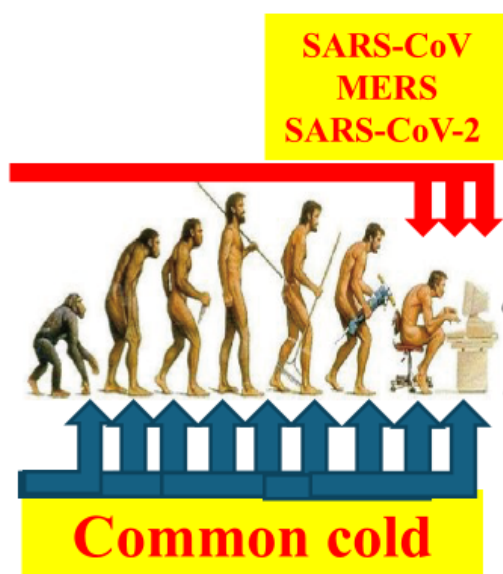
日時：令和7年12月15日（月）17:00～18:00

場所：名古屋市立大学桜山キャンパス

医学研究棟11階講義室A

要旨:在世界の医療制度はどの国でも経済的問題を抱えて暗中模索している状態である。その中で本邦における国民皆保険制度は誰でも何時でも受診できる点では大きな賞賛を受けている。これは過去の高度成長経済の賜物であるが、現在では本邦の経済構造の変化や少子高齢化や各種薬剤価格の高騰やに伴い、医療費の増大は国の一般予算の約17%にも達し、本邦の保険制度は大きな転換点を迎えている。このような情勢の中で臨床医に求められているのは所属する医療機関の収入増加やそれに伴う赤字回避という点で、医師としての臨床研究は軽視されつつある。

この様な中で、臨床医としての臨床的研究は、日々の臨床の中で感じる臨床的疑問点を、日進月歩の各種新規技術にどの様に応用可能かを検討し、その成果を論文化し科学的評価を受け、さらに産業界と一緒に安価に社会実装化することが、臨床医としての現在の医療情勢に対する責務ではないだろうか？現実には臨床で忙しく臨床研究どころではないと思われる人々も、ChatGPT、Auto Intelligence (AI)、電子カルテを上手く取り込むことで臨床医の臨床研究も可能になるのではないかと考える。



ご略歴

1976年 名古屋市立大学 医学部卒
1978年 社会保険 中京病院 消化器科 医師
1988年 英国King's College Hospital 留学
2000年 名古屋市立大学 臨床検査医学 教授
2008年 国立国際医療研究センター 肝炎・免疫研究センター長
2016年 国立国際医療研究センター ゲノム医科学プロジェクト長
2023年 ローマ教皇庁科学アカデミー 終身会員
2025年 産業技術総合研究所 招聘上級研究員

次世代研究者挑戦的研究プログラム

SPRING

名古屋市立大学

イノベーション創出に資する

次世代研究者エンパワメントプログラム